

大阪女学院大学 教職課程機関誌 発行

『OJU 教職活動報告・研究 Vol.2』

くさんの教材が転がっており工夫次第で生徒は楽しく英語を学び、コミュニケーション力を高めていけると思いました。そして output を必要とし、それが許されているのは英語のみであること、私たち英語教師の楽しみの一つであることも再確認できました。世界に羽ばたくとか大きなことは結果としてどうなるかはわかりませんが、生徒と共に「取り組む」「興味を引き起こし、楽しめる授業」をめざして頑張りたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

○ 英語教育の水準の高さに定評のある大阪女学院大学で講習を受けたいと思参加させていただきましたが、期待していたおりの内容で満足している。二人の先生の熱心な講義に引き込まれればなしてであった。盛りだくさんの内容、参考になる事例がたくさん。帰宅してからもう一度じっくり読み直してみたい。

○ 味気ない講義ではなく、とても温かみのあるもので、本当に受講してよかったと思えました。具体的に使用できる教材例もすぐ参考になりました。その教材や活動を授業中に行う目的を明確に持っていないといけなことがわかりました。また、教員としてどのような姿勢で日々生徒や授業に向かい、ふとした時間にも使用できる情報収集をしたりすることがとても大切だということを改めて実感しました。今日学んだことを学校で実践し、生徒の力や興味を伸ばしていきたいです。ありがとうございました。

○ 今回の講習のテーマ「英語教材の開発—その基盤となる考え方と工夫—」の、とりわけ、「基盤となる考え方」について、自分自身に再認識させています。まず、俊太郎さんの「朝のリレー」の詩を読んで、感動しました。そして、東日本大震災の映像を見て、涙がこぼれました。中井先生の「私たちは、ひとりの英語の教師である前に、ひとりの人間である。」のことが、今日も強く心に残っています。そう言えば、今までに、中井先生の講習や、勉強会に参加させていただいて、私がいつも思うことがあります。それは、先生に教えていただくのは、明日から使える教材や、そこににつながる考え方、授業実践学だけではなく、明日からよい授業を行おうとする、授業に向かう「力」なのだ、ということです。実は、私にとっては、この「力」をいただくことが、とてもうれしいのです。たとえが悪いですが、少し「栄養ドリンク」にも似ている感じです。今日も「力」を得た私は、家に帰り、また今日先生にいただいた326枚のレジメを見ながら、先生の話の思い出しています。まもなく、私たちにも、短い春休みが始まります。新年度に向けて、生徒の「内発的動機」「内在化」を高めるための工夫を、ひとりの人間として、考えていこうと思っています。

○ 先生方がしっかりとこの講習に向け準備されて、情熱をもって臨まれている姿勢が受講していて、ひしひしと伝わってきました。免許更新のためだけの受講ではなく、今後の教員生活において意義のある講習となりました。ありがとうございました。

○ 本講習を受講して、教材研究の大切さを再認識した。ジャンル、視座、視野、視点という観点から教材をみていくのが改めて大切だとわかった。自分なりに試行錯誤しながら研究を行っているが、自分の思い込みがあるかも知れないので、日頃からたくさんの英語や資料に触れることで、自分自身の感覚を研いで行きたいと思う。考える材料をたくさんいただきました。ありがとうございました。

○ 盛りだくさんの内容でびっくりしました。最近では日々の仕事に追われて、自分の授業を振り返る時間もなかったのですが、今回の授業を受講して反省しました。



教員養成センター活動報告・研究集として、2011年度の活動や教職課程学生のレポート、現場の先生の実践報告などをまとめたVol.2を発行いたしました。実践報告・実践紹介を投稿いただきました岡先生、日下先生、小林先生、熊谷先生、戸田先生にお礼申し上げます。

教員養成センターは今後も地道に活動を続け、本学の教職専修の発展充実を図るとともに、学校現場で直接教育実践を行っている教員の皆さんと共に実践研究を進めてゆきたいと思っております。

まだまだ行き届かないこともあり、本機関誌は今後の改善の余地を残しておりますが、明日の教育を考える教育機関誌としての役割を担うようこれからも着実な歩みを示してゆきたいと願っています。

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/newsletter/bulletin> 参照



目次	
I 2011年度活動報告	—新学習指導要領からみる内容重視の指導法の必要性— 茨木成美 ・「英語教育」の中で文化理解 西田理恵
1. 教員免許状更新講習	
2. 勉強会「英語の教え方教室」	
実践紹介：「元氣の出る授業～子どもたちが活動を通して『気づく』『学ぶ』授業を目指して～」	
枚方市立第2中学校教諭 岡 順二	
II 教員養成センター・ホームページ報告	
1. 月別 HP アクセス件数	
2. 英語教育 巻頭リレー・エッセイ	
3. 書籍紹介	
4. 教育ニュース回顧	
III OJC 教職ネットの1年	
1. OJC 教職ネット登録について	
2. ML 配信記録（配信件数推移）	
IV 教職サークル・教職課程活動報告（学生）	
1. サークル活動報告	
2. 学生授業課題レポート：「英語科教育法Ⅰ」・「英語科教育法Ⅱ」（春学期・秋学期より）	
・「トータル・フィジカル・リスポンズ、ジャズ・チャントは役に立つ指導法か？」 香積美希	
・「中学校・高等学校でのライティング指導の実践」 茨木成美	
資料 教員養成センター Newsletter 2011 第5～8号	
—Content-based approach/ Task-based approach	
V 実践報告・実践紹介・自由論考	
実践報告	
1. 「学習意欲を高める指導法」	
鳴門市立鳴門市第一中学校教諭 日下美香	
2. 「スピーチからディベートへの橋渡し活動としてのサーキットスピーチの活用」	
兵庫県立岡崎小田校高等学校教諭 小林 哲	
実践紹介	
1. 「Post-reading 活動の効果について —要約活動に焦点を当てて—」	
滋賀県立米原高等学校教諭 熊谷向祐	
2. 「授業改善への試み」～この1年間を振り返って～	
滋賀県立石山高等学校教諭 戸田行彦	
自由論考	
1. 「Pūnana Leo を通して「言語保持」について考える」	
大阪女学院短期大学 夫 明美	
2. 「英語教材の開発に関する一考 —その基盤となる考え方と工夫—」	
大阪女学院大学 中井弘一	

第15回「英語の教え方教室」勉強会 案内
2012(平成24)年5月12日(土) 14:00～17:00
大阪女学院大学 教員養成センター

■「Post-reading 活動の効果について —要約活動に焦点を当てて—」

滋賀県立米原高等学校 熊谷 向祐 教諭

■「『授業改善への試み』～この1年間を振り返って～」

滋賀県立石山高等学校 戸田 行彦 教諭

滋賀県の新進気鋭のお二人の先生に実践紹介をお願いしました。

熊谷先生は、昨年度、生徒に「読めたつもり」で終わらせず「深い読み」に導くために、post-reading 活動を行うことが効果的ではないかと考えられ、要約活動に焦点を当ててその効果を検証してこられました。勉強会ではその授業実践や他にも試みられた授業活動をご紹介します。

戸田先生は、昨年度、初担任・新クラブ顧問・初学年英語担当と、赴任校2年目で初モノが3つ並ぶ年で、これら三種の仕事に従事して初めて一人前の教師になれるとの嬉しい思いで、年度当初決意新たに、英語授業改革の基本は英語Ⅰにあると、英語Ⅰのスタイルを根本的に見直そうと授業改善に臨まれた。そのときのサイトトランスレーション・シートを用いた音読重視の英語授業の実践活動をご紹介します。

講師を経て教員になられたお二人は滋賀県の高校英語ディベートの普及活動にも骨身を惜しまず頑張っておられる若手教員です。さわやかなお二人の「実践紹介」にぜひお越しいただき、共に話し合いませんか。



授業の玉手箱

「Creative であること」

中井 弘一

創造への4段階 [Wallas Graham(1949). *The Art of Thought*] は、

- 1 preparation (準備)
- 2 incubation (あたため)
- 3 illumination (ひらめき)
- 4 verification (検証)

と言われる。いきなりアイデアを思いつくことはない。日頃からアンテナを張って、これはと感じる様々なものを収集していく。それらをニトリが卵を温めるように大切にしておく。温められた素材から現状の課題に対応するアイデアがひらめきで生まれてくる。収集した様々な情報や実物を活用するには、受け持つ生徒に応じて学ぶ意欲を喚起させ、教材内容を定着させるプロセスを考え認識しておくことが大切である。そうした認識がないと、やみくもに授業展開しても迷うばかりである。

「右手は事をなすもの - 論理・知識・科学、左手は夢を見るもの - 直観・創造・芸術、右手を持って知識に到達しようというのが科学、その科学におけるもろもろの仮説は左手の賜物」とブルーナーは言う。感覚的に物事を瞬時に感じとる「直感」でなく、直接対象をとらえる「直観」による創作に必要な論理思考の3要素は、「Issue 問題課題の明確化：何を考えるべきか整理をして課題を絞る」「Zero-base 常識に縛られない：可能性を否定せず広く考える」「Core 深く考える：深く掘り下げて考える」である。固定概念(思い込み)に左右されやすい教員は、特に“現状の制約に惑わされない”“ゼロスタートで考える”“余分なものは捨てる”ということを意識してみてもどうか。

書籍紹介

『ビジネス・キャッツプロジェクトで学ぶ 実践ビジネス英語』

寺内はじめ (編著) 2010 南雲堂 1890 円
207 ページ



今回は少し“毛色”の変った書籍を紹介したいと思う。『ビジネス・キャッツ』はビジネス英語プレゼンテーション・会話の教本で、ビジネスシーンで一つのプロジェクトを追って、実践的に英語が学べるように書かれている。プロジェクトの準備、市場分析、上層部の説得、新製品の販売活動、クレーム処理、売上結果の報告など、シーン別にビジネスの現場でのやり取りを最大限再現しようとの工夫がなされている。同時に、Taro Nekono 氏を主人公にしたユーモアたっぷりの設定である。キャッツのイラストを楽しみながら読み進めるうちに、気が付いてみればすっかり引き込まれている。ビジネスを目指さない読者にとっても、ビジネスこぼれ話はおもしろくためになるし、説得やクレーム処理の章は日米の文化差を踏まえたコミュニケーション実践の具体的なタイプを示してくれる。書籍とは別に、ウェブ上 (<http://business-cats.net/>) で音声ファイルがダウンロードできるのも便利だ。

実は本書は、ESP(English for Specific Purposes)の観点を極めた秀作であり、ビジネス専門家と英語教育専門家、日本人と英語母語話者、計7人の究極のコラボレーションの産物である。ビジネスコミュニティで用いられる言語表現を周到に分析し、特徴的言語パターンを抽出し、それらを巧みに取り込んで教材に仕上げられているのである。ジャンル分析の視点、「使える英語」への切り口がここに具現化されているといつてよい。

“毛色”は変わっているが、“毛並のよさ”は保証できる1冊である。

(東條 加寿子)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習1・2」 平成24年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

■講習1 平成24年8月6日(月) 9:10~16:40

「教材の開発 - その基盤となる考え方と工夫 -」

・教材開発に役立つジャンルの考え方

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・教材開発の方法 - 教材を見る視点、使う視点、開発する工夫 -

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【教材開発に役立つジャンルの考え方】英語の授業ではさまざまな教材が使われる。英語教材のジャンルに注目して、それぞれのジャンルに固有な言語的特徴をどのように見つけて教材化するかを、事例を挙げながら考える。【教材開発の方法】教材を見る視点、教材を使う視点について検討し、それらの視点を基にワークシートや補助教材作成のデザインなど教材開発の工夫を試みる。さいごにマザーグースの世界を教材として紹介する。

■講習2 平成24年8月7日(火) 9:10~16:40

「体験型ワークショップ・クリニック: 音声で拓く英語の指導のために」

・発音の向上と発音指導の方法

夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授

・英語リスニングのクリニック

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・音読パフォーマンス

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音の向上と発音指導の方法】体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習及び発音指導のヒントについて考える。【英語リスニングのクリニック】英語の音声は音素・音韻レベルから語、句、文レベルへ、さらにまとまった内容のある素材の中でどのように表れているか、リスニングのハードルとなっている要因を段階的に追う。【音読パフォーマンス】「教科書テキスト」「詩」「映画セリフ」「絵本」「ニュース」「早口ことば」など様々な素材を使った音読パフォーマンス。

■受講申し込み受付

平成24年4月16日(月)より7月20日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前 (漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○受講料 3,000 円 (所定の口座へ振り込み)



編集後記

本学の英語名が Osaka Jogakuin College から Osaka Jogakuin University へと改称しました。そこで、ロゴマークも一新。OJU の3つの頭文字を使い、チューバのような大きな楽器ですべてのメロディーのベースとなる音をリズムカルにかつ重厚に奏でているイメージとしました。心に響く教育の基盤を築きあげたいと考えています。教員養成センターも Teacher Development Support Center として学校現場の先生とともに明日の教育を担っていきたくと考えています。

この Newsletter も、本学教職専修の活動や皆様との教員養成センター活動の報告、教育情報の提供など、さらなる充実につとめてゆきます。ご支援よろしく申し上げます。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp